2023.7

vol.17

特集
各事業所で働く
看護師インタビュー

クローズアップ ゆうあい

誰もが自分らしく
安心して暮らせる
温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人加島友愛会
http://www.kashima-yuai.or.jp

働き方改革とコロナ渦を経た「働くことの質」

かしま障害者センター
市村賢一

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが令和5年5月8日に2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類感染症へと移行されました。2019年末から私たちの取り巻く環境に大きな影響を与えてきたコロナ対策ですが、5類への移行というステップがどのように推移していくのか、まだまだ注視が必要な状況です。

コロナ渦で大きく影響があったことの一つが「働き方」ではないでしょうか。2018年に働き方改革関連法（働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律）が成立し、2019年4月より順次施行という流れの中で、期せずして「コロナ渦」という働き方を大きく変えざるを得ない状況が生じ、テレワークの拡大やオンライン会議といった手法が日常的になりました。

ちなみに、働き方改革関連法のあらまし（厚生労働省）によると、働き方改革の目指すものとして、『「働き方改革」は、働く方々が、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を、自分で「選択」できるようにするための改革です。日本が直面する「少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少」、「働く方々のニーズの多様化」などの課題に対応するためには、投資やイノベーションによる生産性向上とともに、就業機会の拡大や意欲・能力を存分に発揮できる環境をつくることが必要です。働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できる社会を実現することで、成長と分配の好循環を構築し、働く人一人ひとりがより良い将来の展望を持てるようにすることを目指します。』と記されています。

私たちは法人の事業の中で、障害のある方の就労支援に長らく取り組んできました。

日本では、すべての事業主に法定雇用率以上の割合で障害のある方を雇用する義務があります。障害者雇用率制度については割愛しますが、私たちは「社会に出て働きたい」という障害のある方とそのご家族、そういう意欲のある方を「雇用したい」という事業主の方に事業を通じて支援をしてきました。障害のある方が有形無形のサポートを受けながら職場の中で必要とされ、意欲的に働くことは希望の実現として喜ばしい事でありつつ、社会として当たり前であってほしいとも思います。

就労支援の取り組みを通じて感じることは、障害の有無にかかわらず、人が「働くことの理由」は千差万別であっても、「働くことの質」からくる充実度は、その人の「人生の質に直結する」とても大きな影響があるということです。

近年、障害者雇用代行ビジネスなるものが各地で展開されるようになってきました。とある農園ビジネスでは、事業者が屋内農園を複数の部屋に分けて、遠く離れた複数の企業に貸し出します。企業は、現地で雇用契約した障害のある方に事業者から借りた部屋の中での屋内菜園作業を提供します。雇用管理する担当者も現地で雇用します。現地雇用の障害のある方とスタッフの給与を支払い、さらにビジネス事業者に仕組みや場所の手数料を支払います。そして企業は障害者雇用率の実績として計上するというものです。企業が障害者雇用に関する多くの部分の代行を事業者に依頼し、契約の仕組みだけで企業が雇用管理している形を取り、実績を計上する仕組みは「生産性の向上」や「多様な働き方」といったキーワードを曲解した手法であり違和感を覚えます。

厚生労働省の第128回労働政策審議会障害者雇用分科会（R5.4.17）参考資料3『いわゆる障害者雇用ビジネス（ ※ ）に係る実態把握の取組について』によると、障害者雇用ビジネス実施事業者は23法人が125ヵ所を運営、当該就業場所の利用企業は延べ1,000社以上、就業障害者数6,568人以上と実態把握し、懸念される課題等が議論になっています。

コロナが収束に向かおうとしている社会では、コロナ以前のような働き方と、コロナ下で進化した働き方のハイブリッドが当面の主流になりそうです。障害のある方の就労支援を担う組織として「働くことの質」について一番大事なものは何かを常に考えながら取り組んでいきたいと思います。

加島のあかりちゃん

看護師さんの座談会

各事業所で働く職員
看護師

自然に眠るように逝く人の最後の姿見守る 否定せず名前呼び同じ目線でゆっくり話す 施設で働く「ナースのお仕事」

老いや認知症を知りたいといつか家族の役に立つ

――なぜ福祉施設の看護師になったのですか?

髙田　高齢者の看護に興味があり、一般の病院から特別養護老人ホーム加寿苑（以下加寿苑）に転職しました。人が老いていく過程や認知症への理解を深めたいと…。「自分もいつかは…」と人ごととは思えず、なぜ認知症になるのか、予防法はあるのか、進行を遅らせる方法はあるのかなど、高齢者福祉の現場で勉強しようと思ったのです。

郡山　妹には知的障害があったので、小さなころから障害のある方々と関わる機会がありました。いつか妹の役に立つようなことができたらと思って看護師を目指し、一般病院からアンダンテ加島に転職しました。「ナースのお仕事」というテレビ番組が好きで、その影響もあります。

利用者さんへの胃ろう処置

徳田　これまで一般病院や福祉施設など様々な所で働いてきました。病院は治療し命を救うことが最優先です。だけど以前は、高齢で衰弱している方に点滴のチューブや人工呼吸器を付け、心臓マッサージして、何が何でも存命させようと、パンパンにむくんだまま亡くなっていく姿を見ることもあり、複雑な心境でした。今は長期入院はできず、過度な延命治療は少ないとは思いますが、施設での看護の方が私には向いていると思いました。

――一般病院と施設の看護の違いは何ですか?

徳田　施設は生活の場なので「見守る看護」ですね。最期までその人のまま、できるだけ自然のままご家族に見守られて亡くなっていけるような看護を目指しています。

髙田　一方、病院では「完全な看護」を目指し、「ダメなものはダメ」ですが、施設では、例えばある程度の食事制限があっても、医師と相談して可能な限り食べられるものは食べてもらう。医療的行為の比重が少ない看護という感じです。ですから、本人や家族との合意を踏まえたうえですが、本人がしんどいだけのような「余計な医療」はしません。

郡山　アンダンテ加島の利用者さんは、少し手を差し伸べれば自分でできる方が大半なので、いまの能力を維持し、よい方向に持っていけるように看護側でも働きかけます。病院では、例えば食事ができなければ点滴したり、おしっこが出なければ尿道カテーテル入れたりと、すぐに医療処置が始まってしまうのですが、それでは活動が制限されていってしまう。施設では、ご飯が食べられなくなれば支援スタッフや栄養士さんと相談して食べやすいように工夫したり、おしっこが出るようにトイレ誘

導を増やしたりと、自立度を低めないことを重要視しています。

介護士減少が看護にも影響 緊急時は医師とオンコール

——逆に施設の看護のマイナス面や難しい面はありますか?

髙田　加寿苑の場合、介護士さんの数が減ってきて、意思の疎通が難しくなってきている点ですね。

徳田　介護士さんの数が少ないと、例えばレクリエーションの機会も減り、楽しみが減るとモチベーションも下がり、さらにコロナ禍で面会が制限されてストレスもたまり鬱気味になったり認知症が進んだり…と、悪い循環に陥りがちです。

郡山　病院では常に医師がいるので、何かあってもリアルタイムに指示を仰ぐことができますが施設ではそれが難しい。アンダンテ加島では月２回、医師の往診がありますが、それ以外の急を要するときの対応など判断に困るときもあります。看護師同士や上司と相談しますが、よほどの時は担当の医師に指示を仰いだり、場合によっては自分たちで病院を探し連れて行くこともあります。

食事介助中の嚥下確認

——日常の医師との関わりはどうなっているのですか?

髙田　加寿苑は週に２回、内科の医師が来られ、その時点で体調の悪い方を診察してもらいます。それと、「看取り介護」になっておられる方の診察があり、いざという時の決め事をすることもあります。主治医とは「オンコール」という直通電話もあります。

徳田　リベルテ加島は月２回の医師の往診がありますが、他の日や夜間などに何かあれば、医師へのオンコールで指示をもらいます。血液検査の結果なども相互に情報を共有しています。新しい利用者さんに関しては施設側からの情報のほか、医師間で「診療情報提供書」のやりとりがあります。

郡山　アンダンテ加島も月２回、精神科の医師の往診があります。内科系の気になる症状があり、担当医師を待てない場合は、自分たちで病院を探して連れて行くこともあります。障害があるので、どこでも受け入れてくれるわけではなく、病院探しに苦労することもあります。症状などを正確に伝えられない場合もあるので、受診の際は看護師らが付き添います。

「待ってたで」に励まされ 情報集め変化見逃さず

——施設の看護師として心がけていること、大切にしていることは?

髙田　まずは日常の健康チェックです。高齢者の方は急変することがありますから…。利用者さんとは目線を同じにしてゆっくり話を聞きゆっくり答えるようにしています。認知症の方が繰り返し同じことを聞いてきても、こちらから話を打ち切らずに何度でも繰り返し答えます。「この人は悪い人じゃない」と思ってくれるだけでいいんです。そして、年に十数名お亡くなりになる方の最期をどうするかを一番大事にしています。

徳田　人間関係がうまく行くよう、まあるく過ごせるように心がけています。口下手ですが、できる限り全員のところを回って、一日一回は一人ひとりとおしゃべりするようにしています。会話の中に相手のお名前を入れると安心感を与えるので、それを意識しています。

郡山　いろんな情報を得て、その中で考え判断するようにしています。例えば食事量が減っているのに看護師の前では頑張って食べようとする人もいます。他にも症状がないか支援スタッフから情報を得て、原因を考え、病院受診など判断します。悪化すると自傷行為などに結びつくこともあるので、小さな変化も見逃さないようにしています。相手の話を聞くときは、できるだけ否定せずに最後まで聞きます。こだわりを持って何度も同じことを言う方もいますが、それを止めるのではなくて、納得するまで話すと、自分で気持ちを切り替え落ち着かれます。

——やりがいを感じるのはどんなときですか?

徳田　利用者さんの笑顔を見られたとき。「あんたがいたら安心する」と言われたとき。退院して帰ってきてだんだん元気になっていかれるときですね。

郡山　退院される方をお迎えに行ったときに、最初は「誰だろうこの人」という表情をされるのですが、話してたら職員だとわかり、表情が戻ってくるときが嬉しいです。

髙田　介護士さんと一緒に一つの仕事を成し遂げたとき。例えば褥瘡（じょくそう）（床ずれ）ができたときに、介護士さんに相談し、「オムツの回数を増やしましょう」「当て方も考えてみましょう」などの提案を受け、こちらからは医師の意見も踏まえ、「この薬を使ってみましょう」と提案し、２週間、３週間経って治ったようなときです。

——印象に残っている利用者さんや、出来事はありますか?

髙田　正看護師の学校へ行くために三年間、加寿苑を離れることになったとき、寝たきりの方がおられ、「上の学校に行って勉強するので辞めるけど、また帰ってくるからね」と挨拶して離職したんです。そして三年経って帰ってきたら、その方の名前があったのでご挨拶に行くと、「お帰り」「待ってたで」と言ってくれた。その出来事が今も私を励まし引っ張ってくれています。

郡山　入職して一年目、30 代の方で、「最近歩き方が変だ」という情報が支援スタッフからありました。受診してもらうと脳腫瘍が見つかり、すでに手術も抗がん剤も難しかったのですが、基本的な治療ができないなかで必死に生きようとする姿を見せてくれました。廊下などですれ違うと私の頭をポンポンと軽く叩いて行かれる笑顔が素敵な方でした。

徳田　リュミエール加島にいたときの「看取り介護」の方でしたが、最期まで気丈で朗らかで品のある、凛々しいというか、かっこいい方でした。周りに気配りして、言葉遣いも穏やかで…。その人の全ては最期ににじみ出てくるんだなあと思いました。

最期に表れる人の生 黙祷し「お疲れさま」と…

——「看取り介護」とはどういうものなんでしょうか?

髙田　施設におられた方が入院され、これ以上の医療を施しても治らない状況になると、最期を看取るということでこちらに帰ってきます。ただ「看取り介護」だからといって特別なことをするわけではありません。気持ちよく毎日を過ごしてもらうよう、オムツ交換や無理のない食事摂取など以前と変わらないケアをします。最後はご飯も食べられず水分も取らず薬も飲めず、おしっこも出なくなりますが、無理な延命治療はせず、自然に眠るように亡くなられるまでの過程を見守ります。

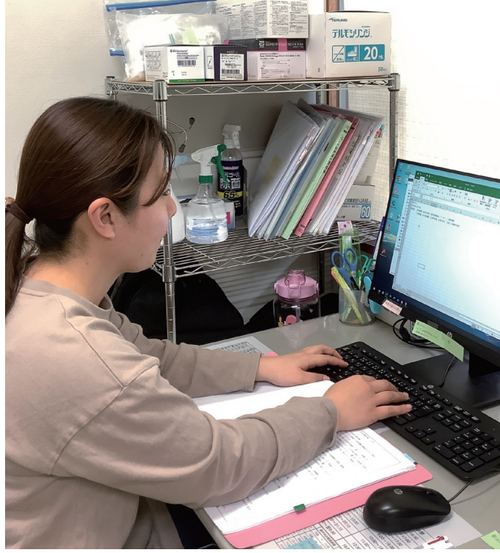
徳田　医師と看護師、薬剤師、ケアマネージャー、生活相談員、そしてご家族を交えて、終末期の治療方針を話し合います。ご家族や本人が、こういう治療はせずに看取ってほしいなどと希望されたら、最期はお看取りすることになります。

郡山　アンダンテ加島でも高齢化が進み、加えて精神障害を持っている方は実年齢よりも肉体的に 20 歳近く老いているという実態もあるなかで、利用者さんの「看取り介護」について検討の必要性が生じています。

髙田　介護士さんは私たちよりも利用者さんとふれあう時間が長く思い入れも深いので、とりわけ身内のいない方の場合など、必ず最期に立ち会いたいと言われますね。亡くなられたら、加寿苑の場合ですけど、医師に死亡診断書を書いていただいて、黙祷して「お疲れさまでした」と声をかけてから介護士さんと一緒に体を拭きます。「今日は寒かったね」、「よく頑張ったね」、「こんなこともあったね」などご遺体に話しかけながら…。それから詰め物をして、お化粧して、一番お気に入りの服を着てもらって、ご家族に対面していただく。それが特養の看護師の勤めかなと思っています。

——人生の最期に関わることで感じることはありますか?

徳田　病院や施設などいろいろなところで「看取り介護」をしてきましたが、その人の生きてきた全てが最後に全部表れるなあと思います。人がどう亡くなるかは、日々どう生きるかなんだなあ…と。私自身はただただ今を真面目に生きるしかないんですが…。



データ集約と情報管理

郡山　一般の病院にいたときに私が関わった方の多くが、最後に「人との関わりを大事にしておけばよかった」という趣旨のことをおっしゃっていました。会いたい人にはちゃんと会っておかなければ最後に悔いが残ると思いました。

髙田　「この人を看取ってよかったなあ」という気持ちに自分もなりたいし、. 介護士さんにもなってほしい。そのためにも「私はこの人のために悔いなくやった」というケアや看護をしていきたいです。

徳田信恵
（とくだのぶえ）
リベルテ加島看護師。2020 年リュミエール加島へ入職し 22 年にリベルテ加島へ異動。入居者さんとネイルアートを見せ合ってウキウキし、家では飼い猫のエルちゃんと戯れお昼寝を楽しむ。

郡山志穂
（こおりやましほ）
アンダンテ加島看護師。一般病院勤務後、2020 年入職。趣味は旅行と温泉。九州で温泉めぐりをしたこともある。コロナ禍で減ったが、最近は福岡や金沢へと旅行のペースが復活しつつある。

髙田峯子
（たかたみねこ）
特別養護老人ホーム加寿苑看護師主任。2001 年入職して 09 年に退職。正看護師として 13 年加寿苑に復職。趣味は美味しいカフェや新しいお店めぐり。孫二人 (男子) と遊んでリフレッシュする。

定時薬の配薬

加島友愛会で働く人たちの職種紹介

職種	仕事内容など	働く事業所																			
		本部事務局	むつみ	Link	ル・プラス	障害者就労支援事業部	加島希望の家	アンダンテ加島	地域生活支援部	“COCOLO” 相談支援センター	ヘルバーステーショントレフル	特別養護老人ホーム加寿苑	デイサービスセンター加寿苑	ホームヘルプセンター加寿苑	加寿苑診療所	ケアプランセンター加寿苑	淀川区西部地域包括センター	リュミエール加島	リベルテ加島	リュミエールミント
医師	（加寿苑診療所において、）利用者さんを診察し容態・問診・検査データから診療														○					
事務員	各事業所の介護報酬請求業務、来客等の受付業務や関係機関への事務業務、労務管理業務、備品設備管理、利用者さんの見守り	○		○	○		○	○	○			○			○		○	○	○	
看護師	利用者さんへの健康管理や応急処置や日々の療養業務、医師の指導のもとでの医療業務、淀川区西部包括支援センターでは健康相談等の相談業務		○				○	○				○	○				●	○	○	○
管理栄養士	利用者さんの生活状況、身体の状況に応じた食事の献立作成や提供と栄養管理の栄養ケアマネージメント							○				○						○		
サービス提供責任者	訪問介護計画書の作成や、サービスの提供状況の確認、サービス担当者会議に出席、介護支援専門員・相談支援専門員との連携										○			○						
ホームヘルパー	利用者さんの自宅を訪問して、生活援助や身体介護などの日常生活を送るうえで必要な介護サービスを提供										○			○						
ガイドヘルパー	障害福祉での１人で移動することが困難な方が、社会参加や自立した生活をするために安全に外出できるように支援										○									
サービス管理責任者	障害福祉サービスの個別支援計画の作成、関係機関との連絡・調整、他のスタッフの教育・指導		○	○	○		○	○	○											
生活支援員	障害福祉での食事、入浴、排せつなどの支援、身体機能や生活能力の向上のための支援		○	○	○		○	○	○											
職業指導員、就労支援員	利用者さんが職業上で必要な技術の習得訓練・指導や就労支援員は、実習先・就職先の連絡調整・定着支援、関係機関との連携		○	○	○															
職場適応援助者（ジョブコーチ）	障害のある方が就労するにあたり、職場に定着して長く働けるように支援			○	○	○														
A 型作業員	ル・プラス利用者職員				○															
世話人	障害者グループホームで利用者さんと一緒に食事を作ったり、洗濯をしたりする事をはじめ、介助が必要な方に食事や入浴、排せつの支援								○											
精神保健福祉相談員	主に精神的な障害のある利用者さんを対象に日常生活全般に渡る相談への対応、関係機関との連絡調整、社会資源の開発									○										
相談支援専門員	障害福祉サービスの利用に必要なプランの作成、定期的な訪問と面接、関係機関との連絡調整や精神科病院や入所施設等から地域生活に向けたプランの作成									○										
地域移行定着支援従事者	障害福祉サービス等の体験利用、住居の確保、地域生活に必要な準備などの支援									○										
相談援助事業所の相談員（社会福祉士）	日常生活に困りごとがある利用者さん・家族さんへの相談援助、淀川区西部包括支援センターでは、社会福祉士の資格を活かし援助									○							●			
介護支援専門員、主任介護支援専門員	利用者さんや家族さんからの相談に対する情報提供や助言、介護保険サービスのプランを作成、淀川区西部包括支援センターでは福祉サービス等の相談業務											○			○	○	●	○	○	
ケアワーカー	高齢福祉での、入浴、排せつなどの介護や支援、身体機能や生活能力の向上のための支援											○	○					○	○	○
生活相談員	利用者さん・家族さんとの相談援助や他機関との連絡調整、プラン作成援助、ケアワーカーのサポート											○	○					○	○	○
機能訓練指導員（理学療法士）	利用者さんの生活環境の確認や身体機能の評価を行い、どのような訓練が必要なのかを判断し、訓練・指導											○						○	○	○

●淀川区西部包括支援センターでは、社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師（看護師）が配置基準にあり、それぞれの資格知識を活かして相談援助業務を行う

事務職員インタビュー 1　加島希望の家　菅野美由紀

利用者さんも職員も根底は信頼関係
無理せずゆっくり和を築きたい

発注業務

買い物活動の受け渡し

——ここでお仕事をしようと思ったきっかけは

菅野　高齢化が進むにつれ福祉に関わる仕事が何かしたいとの思いから、当初は特別養護老人ホーム加寿苑に入職しました。加島希望の家に異動した際は、高齢とはまた違った施設で利用者さんや職員と馴染んで働けるだろうかと若干不安がありましたが、活気ある施設で元気な利用者さんがおられ、ここでのお仕事も大好きになり良かったです。

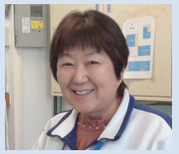
——利用者さんとの関わりエピソード、何か教えてください

菅野　朝、送迎車が到着する時に事務職員が到着案内をしておりますが、ある利用者さんがお礼の挨拶に来られるのが、朝のルーティーンになっています。名前を覚えてくださっている利用者さんもおられて私も嬉しいし楽しいです。

——日々のリフレッシュ方法は何かありますか

菅野　ユーチューブでキャンプ動画を観ること。自然豊かなキャンプ場に行っている気分になりリフレッシュ出来ます。実際にキャンプも行くので、場所・キャンプ飯・テント内のレイアウトを動画で参考にして考えるのも楽しいです。

——今日はどうも、ありがとうございました



菅野美由紀
（すがのみゆき）
加島希望の家事務員。2004 年 3 月入職。加寿苑、リュミエール加島、法人事務を経て現在。趣味は、キャンプと好きなアーティストのライブに行くことです。

事務職員インタビュー 2　リュミエール加島　木山雅子

福祉施設での関わりは大切
皆さんと一緒に過ごすことで自分も成長したい

——ここでお仕事をしようと思ったきっかけは

木山　昔、母が広範囲でボランティア活動をしていて、同じような事を私も少しはしてみたいなと思っていました。福祉施設で事務をすれば様々な方と関われると思い、今に至ります。

——利用者さんとの関わりエピソード、何か教えてください

木山　「時計が壊れたから見て」「この新聞コピーして」「○○職員呼んで」「請求書内容の確認がしたい、教えて」「今から買い物行ってきます」「今から家に帰るから出さしてください」「ちょっと話聞いて」と様々な利用者さんが受付に来られ、様々な関わりが持てています。

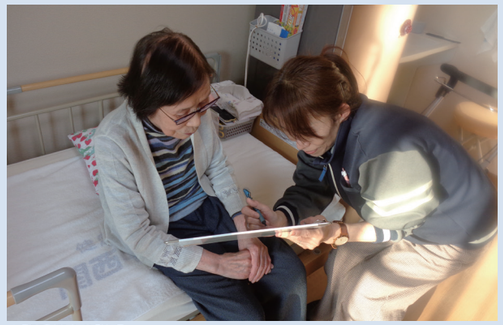
——今までの関わりの中で、何か困ったことはありましたか

木山　一人で電話応対や来客対応中に、引き留めるべき利用者さんが外へ出ていこうとされる時は、ヒヤッとします。

——日々のリフレッシュ方法は何かありますか

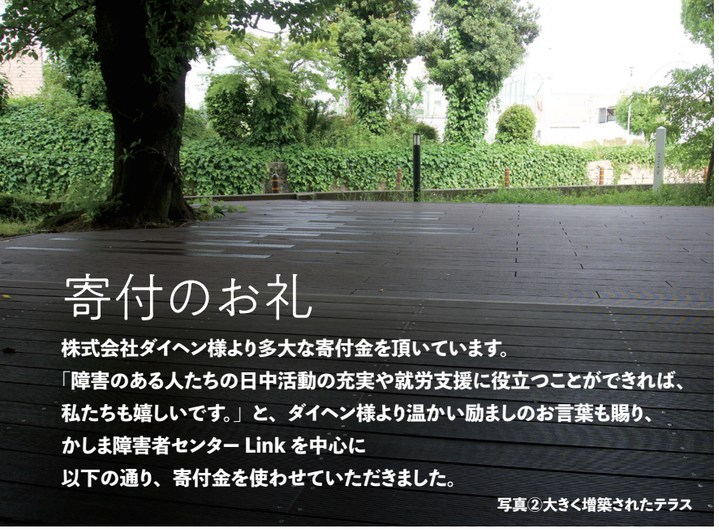
木山　家の近所を散歩しています。遠出をしないので (笑)

——今日はどうも、ありがとうございました


事務手続きの説明

事務作業の合間に利用者さんがよく訪ねてきていて、いつも楽しそうにお話されています
（介護士さんより）

木山雅子
（きやままさこ）
リュミエール加島事務員。2021 年 12 月入職。
福祉の分野で楽しく仕事出来る事がありがたい毎日。たくさんの笑顔の中で、入居者さんと一緒に生涯発達していきたいです。



寄付のお礼

株式会社ダイヘン様より多大な寄付金を頂いています。「障害のある人たちの日中活動の充実や就労支援に役立つことができれば、私たちも嬉しいです。」と、ダイヘン様より温かい励ましのお言葉も賜り、かしま障害者センター Link を中心に以下の通り、寄付金を使わせていただきました。

写真②大きく増築されたテラス

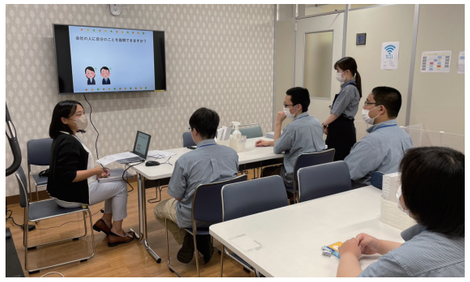
- **作業台**　Link の作業室で使用する作業台を新たに購入させていただきました。整理整頓もしやすくなり、見た目にも新しい作業室になり、利用者さんも支援スタッフも安全かつ快適に作業プログラムに参加できるようになりました。【写真①】
- **休憩スペースの環境整備**　リネン作業での在庫置き場になっていたスペースを見直し、休憩スペースを作りました。テラス【写真②】を増築したり、休憩室の壁紙を張替えたり、テレビやゲーム機器を購入させていただき、利用者さん同士が楽しく会話したり交流したりできるスペースを整備することができました。【写真③】【写真④】
- **作業用車両**　チェアクリーニング作業や施設外作業での移動用に使用する車両を購入させていただきました。これまで以上に活動範囲を広げ、利用者さんに支給する工賃額の向上を目指していきます。【写真⑤】【写真⑥】
- **複合機**　PC プログラムで印刷をしたり、スキャンや PDF に加工したりと、作業用に複合機を購入させていただきました。事務補助作業での就職を想定した作業プログラムの充実に繋がり、利用者さんが実践練習できる場を増やすことができました。【写真⑦】
- **電動自転車**　一般企業へ就職された OB 利用者さんの定着支援や実習先への訪問などに活用するため購入させていただきました。【写真⑧】

株式会社ダイヘン様には 2020 年度から毎年継続的に寄付金をいただいています。昨年には Link にも視察に来ていただき、現在の活動状況や今後についても熱心に耳を傾けて下さいました。これまでの寄付金で環境整備させていただき、利用者の作業プログラムの拡充や、施設で過ごす時間や空間の充実につながっています。株式会社ダイヘン様へ、心よりお礼申し上げます。

写真⑤⑥作業用車両
（背面ロゴマーク）

写真①白くて新しい作業台

写真③休憩時間はみんなで TV ゲーム



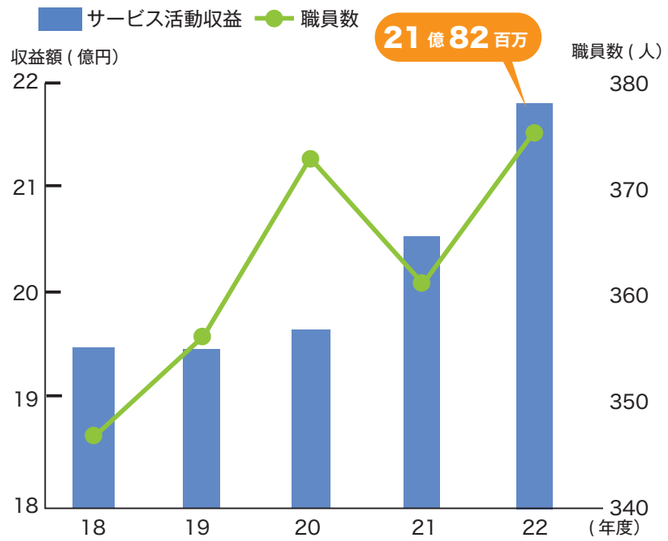
写真④休憩室で小グループのビジネス講座

写真⑦事務補助作業で活躍する複合機

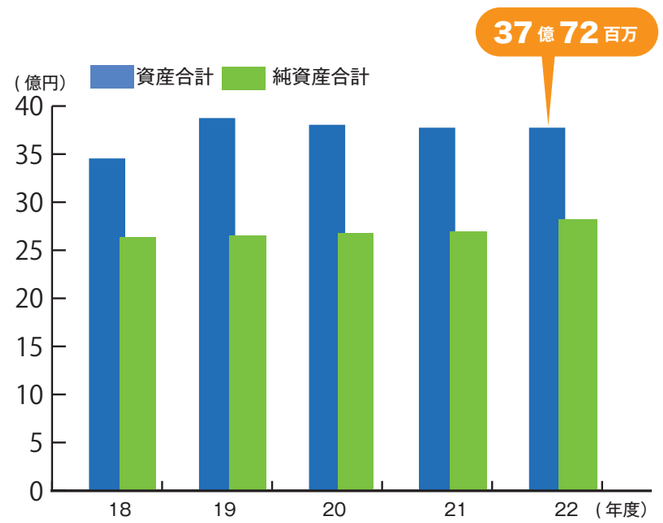
写真⑧電動自転車 2 台

2022 年決算ハイライト

サービス活動収益と職員数



資産合計 / 純資産合計



後援会の活動にご協力ください

後援会へご加入いただきありがとうございます。紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

2022 年度後援会加入状況

団体	23 団体	29 口
個人	178 人	204 口

合計 906,220 円

2022 年度は、加島友愛会が運営する各施設に対して、施設利用者のためにポータブル電源、ワイヤレススピーカーセット、デジタルカメラ、掃除機、足湯フットバス、エクササイズバイク、作業台、ピラティスボール、体操棒、ソファ、スチールラック等の支援を行いました。施設利用者およびご家族の方々の利用に供するための支援を、今後も行う予定です。引き続き、加島友愛会後援会をよろしくお願いいたします。

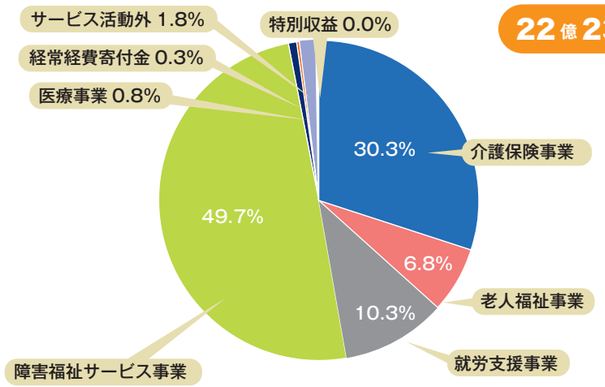
自動掃除機

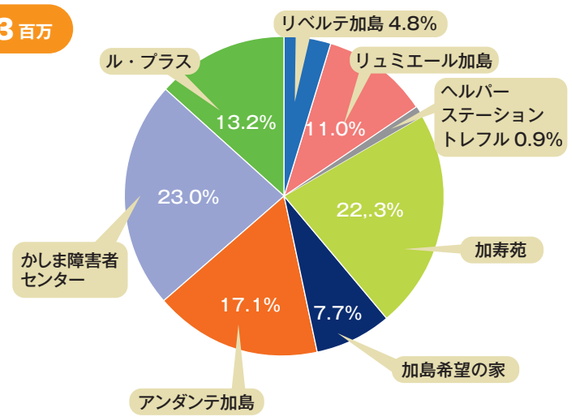
ソファーセット

2022 年決算ハイライト

法人収入

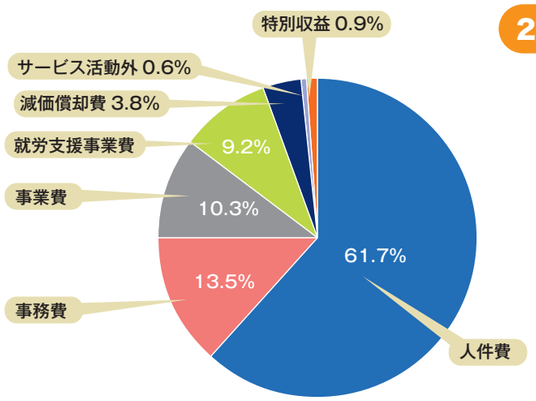
22 億 23 百万

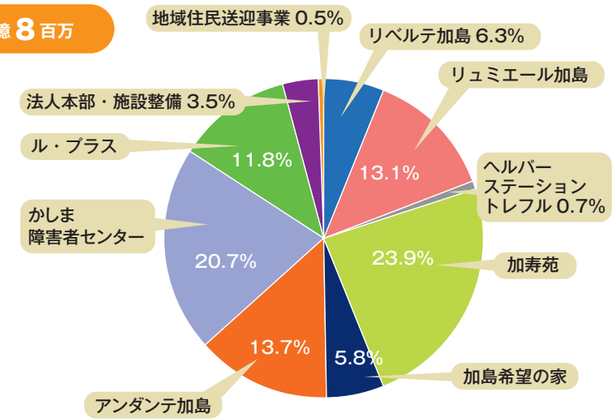




法人支出

21 億 8 百万





当期活動増減差額

115 百万

当期活動増減差額とは、一般企業の当期純利益に相当します。

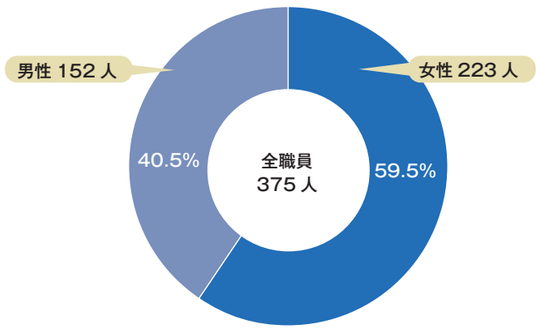
当期活動増減差額 ＝ 経常増減差額 ＋ 特別増減差額

経常増減差額とは、一般企業の経常損益に相当します。サービス（支援）による収益と費用および
サービス以外の収益と費用（借入金利息、補助金・受取利息、利用者等以外の給食等収益）
特別増減差額とは、固定資産の取得・廃棄等、および設備資金の借入・調達・返済等の収益と費用

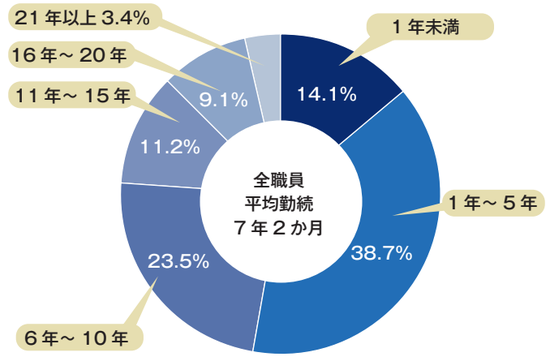
詳細は別紙決算書をご確認ください。

基礎データ・職員プロフィール

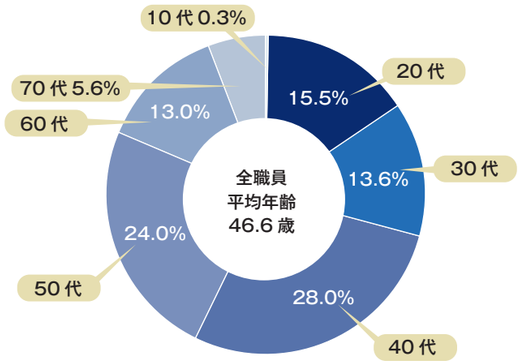
男女比

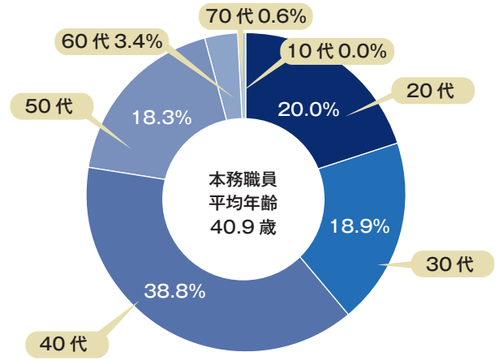


勤続年数



年　齢





資格手当支給者数

149 人

資格種別

資格種別	保有人数
ヘルパー1級及び実務者研修	7
介護支援専門員	18
介護福祉士	61
看護師･准看護師	8
管理栄養士･栄養士	4
社会福祉士	8
社会福祉主事	23
精神保健福祉士	2
中学教諭、その他	6
保育士･幼稚園教諭	10
理学療法士	2
総計	149

障害者の雇用

20.4%

加島友愛会の障害者雇用数は 50 人です。障害者の雇用率は法定雇用率が 2. 3% に対し、加島友愛会では 20.4% となっています。この高い障害者雇用率は豊中市で運営する就労継続支援 A 型事業所ル・プラスの障害者雇用増進などによるものです。

外国人の雇用状況

9 人

2017 年度から受け入れを開始し、近年は特定技能や技能実習生を招き入れています。本年度は加島友愛会での在職中に 2 名が介護福祉士の資格取得をしました。仕事と勉強に励んでいます。今後はミャンマー人の技能実習生なども受け入れる予定です。

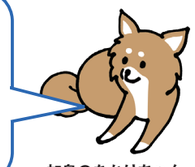
各事業の事業報告および詳細は、
法人ホームページをご確認下さい。

誰もが自分らしく安心して暮らせる温もりのある地域社会を目指して

社会福祉法人
加島友愛会

〒532-0031
大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6101-6601 FAX.06-6308-7299
e-mail 1991@kashima-yuai.or.jp
URL http://www.kashima-yuai.or.jp

ホームページは
こちら!



加島のあかりちゃん

❶かしま障害者センター

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 60-36
TEL.06-6308-7206 FAX.06-6308-7299

むつみ（生活介護事業・就労継続支援事業 B 型）
e-mail mutsumi@kashima-yuai.or.jp

地域生活支援部（障害者グループホーム）
e-mail kashima-chiikiseikatu@kashima-yuai.or.jp
●加島苑●セッション●チューリップ●あさがお
●カナリヤ●うぐいす●ひのき●トレフル

Link
（就労移行・就労継続支援事業 B 型・自立訓練・就労定着支援）
TEL.06-6308-7210 FAX.06-6308-7220
e-mail link@kashima-yuai.or.jp

障害者就労支援事業部
TEL.06-4805-2485 FAX.06-6308-7220
e-mail kashima_jc@kashima-yuai.or.jp

“COCOLO” 相談支援センター
（地域活動支援センター（生活支援型）・特定相談支援事業・一般相談支援事業）
TEL.06-6308-7209 FAX.06-6308-7220
e-mail cocolo@kashima-yuai.or.jp

❷ル・プラス（就労継続支援事業 A 型）

〒561-0843 大阪府豊中市上津島 1 丁目 4-3
TEL.06-6151-3701 FAX.06-6151-3810
e-mail re.plus@kashima-yuai.or.jp

❸加寿苑　特別養護老人ホーム

●特別養護老人ホーム●ショートステイ●診療所
●デイサービスセンター
〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 34-8
TEL.06-6305-0711 FAX.06-6305-0773
e-mail kajuen@kashima-yuai.or.jp

ホームヘルプセンター　加寿苑（高齢部門）
TEL.06-6306-6205 FAX.06-6305-0773

淀川区西部地域包括支援センター
TEL.06-6305-0737 FAX.06-6305-0738
e-mail yodogawa-seibu@kashima-yuai.or.jp

❹アンダンテ加島（施設入所支援・生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 36-46
TEL.06-4806-6780 FAX.06-4806-6781
e-mail andante@kashima-yuai.or.jp

❺加島希望の家（生活介護事業）

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 49-21
TEL.06-6390-5666 FAX.06-6302-2551
e-mail kibou@kashima-yuai.or.jp

❻リュミエール加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-35
TEL.06-6308-7788 FAX.06-6308-7799
0120-087-322
e-mail lumiere@kashima-yuai.or.jp

リュミエールミント　機能訓練特化型デイサービス
TEL.06-6308-7797 FAX.06-6308-7799
e-mail lumieremint@kashima-yuai.or.jp

体験利用
受付中

❼ヘルパーステーション　トレフル（障害部門）

〒 532-0031 大阪市淀川区加島 4 丁目 16-34
TEL. FAX.06-6476-7185
e-mail trefle@kashima-yuai.or.jp

❽リベルテ加島　介護付有料老人ホーム

〒532-0031 大阪市淀川区加島 1 丁目 38-20
TEL.06-6305-5750 FAX.06-6305-5756
0120-991-707
e-mail liberte@kashima-yuai.or.jp

企　　画 法人機関誌検討委員会
市村賢一、西岡剛、篠原卓也、十倉伸二、
山下修一、北村智之、森本香奈枝、北川将大
編集協力 新島洋
デザイン 桐田博子
印　　刷（財）浪速振興会